

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

学校評価表作成について変更した点は朱書きしています

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	吉野ヶ里町立三田川小学校		
1 前年度 評価結果の概要	・学校教育目標である「ふるさと三田川を愛し、新時代を強く生き抜く児童の育成」については、教職員は地域との連携を通して、児童は夢や希望に向かってということ、共に努力をしている姿がよく見られた。 ・校内研究における授業参観、授業研究を通して、児童の学習活動に対する意識は「好き」「まあまあ好き」が90%と良い結果である。教職員についてはタブレットの活用、個別化への対応等、時代に即した指導方法について今後も工夫が必要である。 ・学校生活に関わって、毎月の「教えてね」アンケートや「いじめ・体罰」アンケートにて、児童の困り感、友達関係等、早期発見、早期対応に努めた。道徳授業を中心に啓発を積極的に行うことが課題である。 ・体力づくりについては、毎週の「かけ足タイム」にて、伝統的かつ継続的な活動で充実を図っている。食育については、給食での残食が多いことから、食の大切やバランスの良い食事など啓発や指導に力を入れていかなければならない。		
2 学校教育目標	ふるさと三田川を愛し、新時代を強く生き抜く児童の育成		
3 本年度の重点目標	「かしこく」のために…意欲、基礎力と活用力が育つ学びの学校へ (1) 校内研究（外国語活動、外国語教育）の充実及びICT利活用の推進 (2) 基礎基本の定着と集中力向上のためのスキルタイムの実施 (3) 「授業づくりのステップ1・2・3」に沿った授業の展開 (4) 家庭学習の習慣化と読書活動の推進	「心ゆたかに」のために…ふるさとに愛着をもち、お互いを大切に、明るく楽しい学校へ (1) 道徳や人権教育を通しての心の教育の推進 (2) 縦割り班による清掃活動と履きもの揃えの徹底 (3) 図画工作・音楽教育の活性化による情操教育の推進 (4) 芝生や花壇等の充実と、校舎内外の環境整備	「たくましく」のために…心身の健康と安全を大切にする学校へ (1) 一人一人の価値を尊重し、居場所のある支持的風土の醸成 (2) 体育の授業の充実と、かけ足、自力登校の推進による体力の向上 (3) 子供主体の活動を通しての成就感・達成感・有用感の醸成 (4) 保護者、地域と連携したあいさつ運動の推進

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○主体的、対話的で深い学びを意識した授業づくりに向けた共通理解と共通実践	○友達と話し合う場を中心に、自分の考えを述べたり友達のことを聞いたりすることを肯定的に促した児童の割合を80%以上とする。	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1、Vol.2」を踏まえ、国語、社会、算数、理科、外国語を中心に話し合う場面を仕組む。							・豊かな学びづくり部長 ・学力向上推進コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校生活アンケートにおいて肯定的な回答をした児童を80%以上とする。	・年3回の人権集会や道徳の授業づくりに関する校内研修等の充実を図る。 ・自然教室、修学旅行、バス旅行等、校外での体験的活動を通して、社会性や倫理感を育む。							・よりよい生き方づくり部長 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの防止に向けて、アンケート結果をいかしたり組織的対応を心がけたりすることができていると回答した職員を割合を80%以上とする。	・学校生活アンケートや保護者との連絡ノートを通して、児童や保護者の小さな声を積極的に取り上げ課題解決につなげていく。							・生活指導担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童を70%以上とする。 ●将来の夢や目標に向けて、キャリアパスポートを年3回以上活用する。	・教育相談に係る校内研修の充実を図ったり、児童との面談に当たってモデル型の研修を行ったりしていく。							・教育相談担当
	○自他を認め合い、互いに心地よい関係に向けた授業づくりへの共通理解、共通実践	○道徳授業に関するアンケートにて、肯定的な回答をした児童80%以上とする。	・『「考え、議論する道徳」授業へ向け』を踏まえ、自己を見つめさせたり、多面的・多角的に考えさせたりする授業を35時間以上実施する。							・道徳主任
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」に向けた方策の検討及び実践	○小中連携で家庭学習強化週間を年2回以上設けて実施する。 ○1日3食、「健康に良い食事をしている」児童を80%以上とする。	・毎日の健康観察の充実、家庭学習強化週間での学習の啓発と把握に努める。 ・保健だよりの定期的な発行による啓発、学級活動や保健における食育教育の充実を図る。							・学習規律、学習習慣担当
	○体力の向上及び食育の充実に向けた教育活動の展開	○日常生活で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上とする。 ○給食の残食率6%以下を目指す。	・毎週金曜日の「かけ足タイム」を実施して、距離を伸ばす、時間を短縮する数値化の目標を掲げる。 ・おいしい給食や楽しい給食として、個に応じて量や時間の調整を細やかに行う。							・子どもの活動づくり部長 ・給食担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 (県費教職員、月45時間以内、年360時間以内)	・毎週金曜日に定時退勤日を設定する。 ・夏季休業期間中に学校閉庁日を設ける。 ・電話対応を7:30～18:30と定める。							・教頭、主幹、教務
	○働きやすい職場環境づくりに向けた業務の均等化、教職員間の連携	○教科主任役割、校務分掌役割の数値化によって視覚的に示す。 (1人1教科主任、1人1校務分掌主任)	・一人1教科主任、1校務分掌主任を担い、業績評価、能力評価と連動して年間3回個人や組織の業務を振り返る。							・教頭、主幹、教務

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○特別支援教育への児童理解と支援体制の構築	○特別支援教育に関する理解や専門性の向上、校内支援体制の充実について肯定的な回答をした職員を80%以上とする。	・特別支援教育に関する研修会を学期に1回実施する。 ・ケース会議の開催、情報共有及び共通理解を図る。							・特別支援学級担任 ・特別支援コーディネーター
○地域に開かれた学校づくり	○学校行事と郷土学習のコラボレーション及び組織化	○各学年の学校行事と郷土学習、地域連携を各学年、年1回は実施する。	・各学年の教育課程を見直し、学校行事と郷土学習のコラボレーションを具体化して年間行事計画に位置づけて実施する。							・教頭、主幹、教務 ・学年主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------